

新晃工業

大空間の空調ニーズに応える

長時間稼働で

省エネ・高効率の実現目指す

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長 武

田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5）は、工場や大型施設など大規模空間における「長時間稼働を前提としながら高効率・省エネを両りたい」という空調ニーズに対してダブルフラクファン空調機、リリーフエアAHUのラインアップでソリューション提案に取り組み。

同社の今年度第3四半期連結累計（平成29年4月1日～12月31日）業績は「空調機の全国出荷台数の増加傾向が続くなど、需要の端境期を脱する見込みが濃厚になった」とし、今後の需要増

を見据えて「個別受注生産サービソ向上に関するシステム投資、製販連携による生産性向上の取組み」といった先行投資に努めてきた」とする。こうした取組みの結果、同社グループ売上高は前年同四半期比6・7%増の285億6千500万円となった。業界を取り巻く受注環境では東京五輪開催に向けた都市開発事業や増加の一途をたどるインフラ需要がプラス要因に挙げられる。しかし、他方では、ビル用マルチエアコンを導入する物件も増えているのが実情で、これによる需要減

を差し引き、今期は概ね計画通りの着地を見込んでいる。関西エリアでは「新築物件が少ない中で動きが活発化しているのがホテル。しかし、かなりの規模（のホテル）でもビルマルが採用される傾向がある」（営業開発部長、稲川健氏）と地域動向を話す。半面、更新需要は根強く、これを根拠に新晃工業のラインアップで動きが見られるのがダブルフラクファン空調機、リリーフエアAHU。ダブルフラクファン空調機は全体的なバランスの整備により、平均効率（仕稼風量選定平均効率）75%を達成している。ペルトレス化の駆動方式で工場などの長時間操業体制に対応し、メンテナンスコストも大きく削減できる特徴を持つ。

一方、リリーフエアAHUは1台の空調機に2台のファンモータを搭載、それぞれのファンモータごとに独立動作するため、どちらかのファンモータが停止しても自動でバックアップ運転し、万一の故障時に素早い対応がとれる。1台のファンモータで約70%の風量を確保しながらもう1台のファンモータのメンテナンス、修理・交換ができ、従来は困難だった空調機運転中のファンモータのメンテナンスが行える。

同社では「大空間の空調ニーズに対しては水方式が優位性を発揮する。我々としても需要の掘り起こしを図り、積極的に取り込んでいきたい」（稲川部長）とこれからの取組みを強調する。